第 4 巻刊行にあたって

堤　正典

この論文集には「ロシア語学」と「言語教育」をタイトルとして掲げている．科研プロジェクトの内容は「ロシア語教育」であり，いわば上の二つの積集合の部分である．しかし，和集合としてとらえて，どちらかには直接かかわることがないテーマでも取り上げてよいと考えている．その方が，論集としてはダイナミックではないだろうか．

さて，今回も多彩な論文を収めることができた．そのうちの 6 編は，2012 年 3 月 24 日に神奈川大学横浜キャンパスで開催された「シンポジウム・ユーラシアを研究する『日ロの交流と言語教育～ロシア語の新たなる国際性』（2011 年度神奈川大学国際交流事業，神奈川大学ユーラシア研究センター・神奈川大学言語研究センター共催）での報告がもととなっている．シンポジウムでは，現在のロシアの国際的な立場からロシア語にかつてのソヴィエト時代（冷戦時代）とは異なる「新たなる国際性」が存在していることと，ロシア語教育そして日露交流をゆるやかに結びつけて，報告者たちがテーマを設定して考えを述べていった．かなり大胆でユニークな試みであったと言えよう．当日のプログラムは次ページに示す（登壇者の所属・職名は開催時のもの）．

シンポジウム以外の 4 編のうち 2 編は，神奈川大学の学術協定校であるロシア連邦の国立アストラハン大学の研究者たちからの寄稿である．上記のシンポジウムと合わせて，本書は神奈川大学のロシアとの交流の賜物である．この 2 編の編集作業は実際上，アストラハン大学で日本語講師をしていた小林潔氏が行ったものである．本来であれば，共編者として名を挙げなければならない貢献であった．感謝の意を申し上げる．

そして，さらに，論集のタイトルに相応しい文法研究・文法教育研究の論考も 2 本掲載することができ，全体としてバラエティー豊かでありながらも，4 章にまとめられ，相互に響きあうものとなったと思う．

最後になるが，本論集の編集作業には大変な時間がかかってしまい，執筆者の皆さんには早々と原稿を提出してもらったにもかかわらず，刊行が大きく遅れてしまった．すべて編者の責任であり，お詫び申し上げる次第である．

2011 年度神奈川大学国際交流事業

シンポジウム・ユーラシアを研究する

「日露の交流と言語教育　～ロシア語の新たなる国際性」

日時：2012 年 3 月 24（土）　13:00～17:30（12:30 開場）
会場：神奈川大学横浜キャンパス 17 号館 215 会議室
横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
TEL 045-481-5661(代)
東急東横線白楽駅下車徒歩 13 分
http://www.kanagawa-u.ac.jp/access/

13:00　開会
開会の辞　堤　正典（神奈川大学言語研究センター所長／外国語学部教授）
挨　拶　中島 三千男（神奈川大学学長）

13:15-14:15　＜セッション 1＞　ロシア語の国際性をめぐって
小林　潔（神奈川大学）
「学習者にとってロシア語の国際性とは何か ―問題提起にかえて」
臼山　利信（筑波大学）
「民族国家語とロシア語 ―グローカル化する中央アジアの言語状況」

14:15-15:15　＜セッション 2＞　ロシア語教育の新方略
アレクサンドル・トルストグーゾフ（青森公立大学）
「ロシア語教育とロシア語検定」
尾子 洋一郎（神奈川大学）
「ロシア語語彙データベースの制作」

＜休憩＞

15:30-16:30　＜セッション 3＞　ロシアでの日本語教育の現場から
アリーナ・サヴィノワ（国立アストラハン大学）
「エンジニア専攻学生への限定期間日本語教育の特徴について」
イリーナ・ボチャルニコワ（国立アストラハン大学）
「ロシア人児童（7-10 歳）に対する日本語教育の特徴について」

16:30-17:00　＜セッション 4＞　日露の研究者交流によせて
阿出川 修嘉（TUFS オープン・アカデミー）
「日露における研究者を取り巻く環境の差異について」

17:00-17:30　全体討論

閉会の辞　小山　和伸（神奈川大学ユーラシア研究センター所長／経済学部教授）

司会　堤　正典（神奈川大学言語研究センター所長／外国語学部教授）

共催　神奈川大学ユーラシア研究センター
神奈川大学言語研究センター

来聴歓迎・事前登録不要